



仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の明るく元気な情報を発信！～

令和5年度第3号(通算第82号)
令和5年8月29日発行-隔月発行-
【発行】宮城県仙台地方振興事務所

地
振

「水産現場研修～荒浜漁港の未利用魚への取組～」を開催しました！
【地方振興部】 2

地
振

高校生向けものづくり企業見学会を開催しました！
【地方振興部】 2

林
振

宮城県産木材を使った木工ワークショップが開催されました
【林業振興部】 3

農
振

第2回いちご新規生産者・後継者向け勉強会を開催しました
【農業振興部（亶理農業改良普及センター）】 3

農
整

亶理町立高屋小学校で生き物調査が行われました
【農業農村整備部】 4

仙台地域のこの時期おすすめの 観光スポット ゆりあげ周遊船（名取市）



【仙台地方振興事務所Instagram】
仙台地域の観光情報を発信中です！
←詳しくはこちら



【ゆりあげ周遊船】
運航期間：7月～10月
詳しくはこちら→



「水産現場研修～荒浜漁港の未利用魚への取組～」を 開催しました！▶地方振興部



地方振興部では、料理人の卵である学生に地元食材を知ってもらい、地産地消への取組を促進する活動を実施しています。

今回は、学校法人滋慶学園仙台農業テック&カフェ・パティシエ専門学校、水産漁港部と連携し、その活用が課題とされている「未利用魚」をテーマ食材として、6月30日に水産現場研修を開催しました。宮城県漁業協同組合仙南支所の佐伯支所長、宮城県漁業協同組合仙南支所水産加工研究会の木村会長、株式会社庄福丸の清水谷氏を講師として、荒浜漁港における水産業の現状や未利用魚の特徴、地元ならではの調理方法等を学びました。また、学生たちは、水産加工研究会が丁寧に小骨を抜いて調理した「カナガシラ」の天ぷらとさつま揚げを試食し、「美味しかった」「自分たちも活用方法を考えていきたい」と話していました。

今後、専門学校では未利用魚を使用した料理のレシピコンテストの実施が予定されています。このような取組をきっかけに、地場で獲れる未利用魚の活用促進につながることを期待しています。



カナガシラの天ぷらとさつま揚げの
試食の様子



魚の新鮮保持技術の説明を聞く学生たち

高校生向けものづくり企業見学会を開催しました！ ▶地方振興部



7月13日に、宮城広瀬高校のものづくり企業見学会を開催しました。この見学会は、製造業系企業の見学を通して、高校生がものづくり企業、またはそこで働く人たちへの理解を深め、県内にもたくさんの魅力的な企業があることに気づいてもらうことを目的としています。

見学会には就職活動を控えた普通科3年生約40人が参加し、生徒たちは株式会社仙台村田製作所（仙台市）と株式会社日の丸ディスプレイ東北（利府町）の2社を見学しました。

生徒たちは、企業担当者から企業や製品に関する説明を受けたり、工場見学や作業体験をしたりすることを通して、地元企業について理解を深めていました。見学会を通して「楽ではないがやりがいがありそう」、「従業員ひとりひとりのことを考えた取組がされていた」「社員の方々がやさしそうだった」、「工場内がきれいだった」などの声が聞かれました。



企業説明を受ける生徒たちの様子



工場見学の様子

7月30日に、東北ボーリング株式会社（仙台市）において、小学生15人が、宮城県で育った木材を使い、木作品を製作しました。

この取組は、木を使うことが地球環境に優しいことを学ぶため、令和5年2月に完成した木造新社屋で、今回初めて開催されたものです。

ワークショップでは、林業振興部から「木を伐って、使って、植えて、育てる」ことについての講話を行った後、参加児童による枝や板、木片などの材料を活用した木作品の製作が行われました。

用意された材料から自由に選んで木作品を製作するのに、悩む児童もいましたが、最終的には1人で沢山の作品を作るまでになりました。

児童からは「木にはいろんな模様や色がある」「木を使ったから、今度は木を植えたい」といった感想が寄せられとても有意義な活動となりました。



木作品製作の説明を受ける児童の様子



木作品（ロボット）

第2回いちご新規生産者・後継者向け勉強会を開催しました

▶ 農業振興部（亘理農業改良普及センター）

亘理・山元地域のいちご産地は、震災後に生産を再開した生産者の後継者や、県外等からの新規生産者が参入するなど、若手生産者が増加しています。普及センターでは、いちご生産を担う新規生産者や後継者同志の繋がりを深めるとともに、栽培技術の向上を目的として、7月20日、山元いちご農園株式会社の本社（山元町）を会場に「第2回いちご新規生産者・後継者向け勉強会」を開催しました。

当日は管内各法人、若手生産者等69人が参加しました。勉強会では「pH、EC計の調整と測定、モニタリング」をテーマに、株式会社星理科学器械（仙台市）の講師から「pH、EC計の校正と測定」、普及センターのいちご担当職員から「測定値からいちごの生育を考える」、山元いちご農園株式会社の代表から「情報交換（いちご栽培の養液の流れ）」と、3つのテーマについて実習及び講義を行いました。参加者からは「測定器のセンサーが乾燥に弱いことは知らなかった」「基本的なモニタリングの大切さを改めて実感した」などの感想が聞かれ、実習や講義を受けて内容の理解を深められたようです。

勉強会が終わってからも、次回の参加についてお互いの予定を確認するなど、積極的な交流の様子がうかがわれました。

普及センターでは、今年度の活動として、新規生産者・後継者向け勉強会を継続的に開催する予定にしており、東北一のいちご産地の更なる発展に向けて支援してまいります。



pHとECを測定する様子



第2回勉強会参加者

7月14日に、巨理町立高屋小学校の2学年児童6名を対象に小学校近隣の水路で「生き物調査」を行いました。この「生き物調査」は、巨理地区管理体制協議会が、地域の子どもたちに土地改良施設のもつ多面的機能や自然環境の現状を知ってもらおうと毎年開催しているものです。

児童1人に大人が1人付く体制で安全に配慮しながら、学校周辺の水路で、タモ網を使って生き物調査をしました。30分程度の調査で、メダカやフナ、ドジョウ等のたくさんの生き物を捕まえることが出来ました。

その後、体育館に移動し、捕まえた生き物の名前当てクイズをしながら自分たちで捕まえた生き物の種類や特性について楽しく学びました。

児童からは、「たくさんの生き物を捕まえることができて楽しかった」「学校の近くにこんなにたくさんの種類の生き物がいたのは知らなかった」といった元気な言葉をいただきました。



生き物調査の様子



生き物の名前当てクイズの様子

トピックス

「仙山交流スイーツスタンプラリー」を開催中です！

地方振興部では、やまがた広域観光協議会と連携して、10月12日まで、両県の11市町を舞台に、スマートフォンを活用した「仙山交流スイーツスタンプラリー」を開催しています。

対象のスポットを巡る「ドライブスタンプラリー」では、スイーツを楽しんだり、特設ウェブページ上のクイズに答える「家たびスタンプラリー」では、クイズを機に今まで知らなかった各地域の魅力を発見したりと、2種類のスタンプラリーで両地域を満喫できる企画になっています。また、スタンプを集めて指定の条件を達成すると、両地域のおいしい特産品を、抽選で34名様にプレゼントします。



「大人こそ！ベジプラスチャレンジ2023」参加チーム募集中！

健康な体づくりに欠かせない野菜摂取アップのチャレンジを実施します。事業所・職場の皆さんで参加しませんか？

チャレンジレベルは、4段階あります。3人で1チームを組み、職場で励まし合いながら皆さんで楽しく挑戦してください。

対象は、塩釜保健所管内13市町村に所在する事業所です。詳細及び参加を希望する事業所担当者の方は、QRコードより申込用紙兼報告用紙（Excel形式）をダウンロードし、必要事項をご記入の上、電子メール又はファクシミリにて、宮城県塩釜保健所健康づくり支援班までお申込みください。



【問い合わせ】仙台保健福祉事務所（塩釜保健所）健康づくり支援班
電話番号022-363-5503

「大人こそ！ベジプラスチャレンジ2023」特設ページQRコード